

新井白石三百回忌法要

法要

高徳寺の本堂にて白石先生の
ご法事をお勤めいたしました。



白石先生の法名



内陣のお荘厳(しょうげん=お飾り)



法要風景



住職の挨拶

新井白石三百回忌法要

当主ご挨拶と講演



第12代当主による新井白石先生に関するお話は大変興味深いものであった。



赤衣(あかえ) 黒衣(くろえ)をバックに当主がご挨拶。



新井家ご家族と住職、釋了吾



新井白石研究家・坂井氏による講演の模様。スライド上映とお話。

新井白石三百回忌法要

白山源菴生誕



肖像画



新井白石自筆肖像画
通称『黒衣』(くろい)・表紙の絵
黒衣と左の赤衣、どちらも宝永
7年(1710年)に描かれたもの
だそうだ。

新井白石自筆肖像画

*新井家では通称『赤衣』(あかい)と呼んでいたり...



眉間にしわが「火」という字に
見える。



本堂外陣に掛けられた黒衣と赤衣。
鮮やかな二幅が並ぶ。なんとも豪華だ。

新井白石三百回忌法要

展示品



『折たく柴の記』自筆本（上・中・下）
※『折たく柴の記』は白石の自叙伝である。



『折たく柴の記』新井宣卿書写本
(上・中・下)



新井家ゆかりの日本刀。新井家の家紋
(2つあるうちの一つ) 田字草の家紋が小柄、鞘に付いている。

新井白石三百回忌法要

おまけ



オリジナルの貴重な品々に見惚れる高徳寺
のスタッフ(じ門徒)さん達。



106号は白黒でしたが、今回
107号ではカラー版ということ
であらためて模写してみました♪



当寺お入りの石材店
石匠やまもとさんより墓標を
新しくしていただきました。

有ること難いおかげさんです。

釋了吾の 八女日記

～その16～

皆さん、こんにちは。6月はもう夏ではなにかと思ふよくな陽気で、梅雨がなかなか来ないかあと思つていたら、梅雨入りの大霖でびっくりしましたね。今年は高温多雨」という予報が出ているそうですが毎年毎年どんどん「高温」で「多雨」というより「激雨」(そんな言葉はない)、氣候変動の影響をひしひしと感じています。八女では6月中旬に田植えがありまして、このおかげで田んぼが広がるところには、青々とした田んぼが広がっています。去年も書きましたし、毎年のことですが、今年も田んぼが減りました。私が今住んでいるアパートの横の田んぼも明

後日から宅地の造成工事が始まります。田んぼを手放される理由はいくつもあると思いますが、特に後継者がいなかつうお話をよく耳にします。私も農業をするかと問われたら、大変です。天候に左右されますし、難しいです。とても大変なお仕事なんだと、お参り先でお話を聞くたびに田んぼいます。スーパーで何気なく買う野菜やお米食品は作る人があつてのものなんだ。誰かのおかげなんだなあと、あらためて思われるのですが。お米も高くなりましたね……。

さて、去る5月19日は、高徳寺にお墓がある言時代の「新井白石」とうお方の三百回忌法要を高徳寺本堂でお勤めいたしました。法要の詳しい内容は父が記すと感じます。私にとって、五十年以上、法事に参加するのは初めてのことでした。しかも300年ですから、到底想像がつきません。当日は、新井白石の子孫の家族や、研究家の先生、ご縁のある寺の住職、総代さんやスタッフの門徒さんなど、総勢40名程で墓参りと法事のお勤めをして、研究家の方に講演をいただきました。当日は教科書に載っている自画像など、

展示もあり、とても意義深い法要になつたと思ひます。お世話をなつた方々に御礼申し上げます。300年前の方などうと、当然会つたことも無ければ人柄もわからませんから、遺されたものなどを通して生き方と遭遇うしかなかつけです。2、3代前であれば伝聞の形で多少は解るでしょうが、300年ですと何代前のことをなるやう……この法要を通して多少なりとも、江戸時代を生きた新井白石先生の業績を知り、有り難い縁を感じたことです。これは当り前の話かもしれませんが、300年前も500年前も、1000年前から受け継いできている命のバトンがあるわけです。誰か一人でも欠けていたら、今この我が身は成立しならんだとこうことを、今回の三百回で思はれましたことでした。

八女日記も残すところあと数回となりました。今、私がお勧めさせていたいのが八市にある明永寺さんは、来年の3月末までどうことになります。福岡県の筑後市の九州大谷短期大学に入学したのが2018年。

2025年まで足掛け7年を福岡県民として生活しておりました。東京の地名や道はほとんど分かりませんが、八女市の中じ部であれば大体分かります。地図で見ると、八女市中じ部だけで中野区と同じくらい、黒木町や星野村矢部村など大分寄りの山間部を合せた八女市全体だと、大体東京23区程の大ささになるでしょう。意外と広かったんだなあと、残り少なくなってきた八女生活を振り返りつつあります。最近では、中野坂上や新中野などに住んでいたことがある人や、息子さんが驚く宮にいる人々など、結構中野を知っている方にお会いすることが多いです。「サンプラザは解体したよね?」とか「ふれあロード(ブロードウェイの横の飲み屋街)でよく飲みよつた」とか言われると、なんだか不思議と嬉しくなります。同じ土地に縁があると、人間どうのは自然と打ち解けたり、嬉しいくなる生き物なのでしょうか。土地だけではなくもしません。「同じ」ということで何か喜びを見出すのかもしれませんね。逆を言えば、「違う」には喜びの逆を感じるのも……色々考えさせられます。合掌(うづく)

秋彼岸会 ご案内

今年の私の秋彼岸は **9/19(木)～9/25(水)** です。

お中日(秋分の日)の22日(日) 11時半より本堂にて“彼岸会法要”が
勤まります。どなたでもお参り出来ます。9/22(日)と23(月・振替休)は
新井白石記念ホールが『お休み処』となります。ご休憩やお待ち
合わせにご利用ください。

「報恩講」のご案内

10月19日(土) (12時半受付/16:45終了
(予定))

法話 ご講師 みはる としあき **三明智彰** 先生

(元九州大谷短期大学学長)

次号でもご案内いたしますが、ご予定いただきたく
お知らせいたします。親鸞聖人のご命日を縁とした年に
一度の大法要です。是非ご参詣ください。



次回は
9/8(日) 14時～
です。
ご参加をお待ちしております！

お詫び と 訂正

106号 P.8 に新井白石先生のことをとして記載した
人を用ひる道はその長所を取り短所はがまねを
なつては、荻生徂徠のことばだうじことば坂井昭氏の
じ指摘により分かりました。この場をお借りしてお詫
び申上げます。今後は十分気をつけて参考にならすこと
あります。

2024.6.30 sun 本堂にて

石井 玉枝さん 児玉金之助さん
菅原 千恵子さん 塚田 和子さん
塚田 太郎さん 藤原 淑子さん
水越 拓路さん 水越 和子さん

おかげさん de 仏具が
PikaPika になりました♪





あとがき

コンクリートジャングル東京：

といつても、ここ中野にはハクビシン
やタヌキが出没したという話を
聞くし、鳥もいろんな種類を見
かける。夕方になるとコウモリ
が飛び交い、昆虫も昔に比べ
ると数は減ったが、いろいろの
がいる…。むかでも蚊が多い。
墓地に行くとガルガル(腹ご)の
蚊が襲いかかってくる。お墓にお参
り中に耳もとで「ブゥーン」という羽音を
聞いた瞬間に自分の耳を手でひっぱたいて
しまったことも何度もあった。“墓まいり 合掌
した手で、蚊を殺す”…この言葉を目にしたとき
ハッとしたし、共感もした。人間というものをスパリあらわす
言語だと思う。皆様の感想は…?

墓まいり 合掌した手で 蚊を殺す

『表紙の絵』

新井白石自画像

黒衣(くろい)の模写

(カラー版)

T164-0002

東京都中野区上高田1-2-9

TEL 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

よ。

釋義祐

発行日 2024.7.13

発行 真宗大谷派 高徳寺

編集 住職 新井義雄 (法名・釋義祐)

東京・築地本願寺の
掲示板「あつこじば」